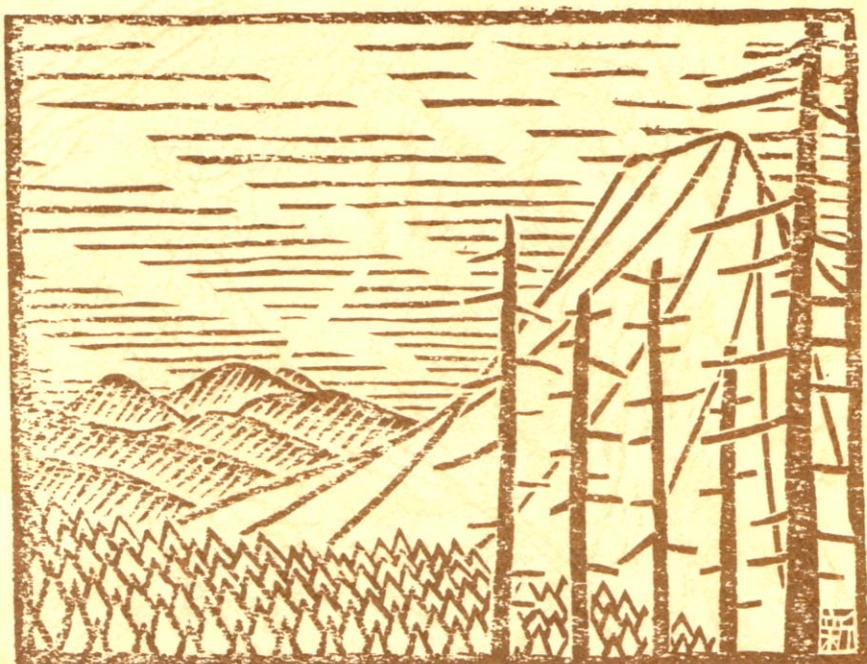


日本雪氷学会北海道支部機関誌

北海道の雪氷

第11号



平成4年7月

発行 日本雪氷学会北海道支部

目 次

巻頭言-----古川義純-----	1
平成4年度研究発表会講演要旨-----	2
平成3年度事業報告-----	60
平成3年度会計報告-----	63
平成4年度事業計画-----	64
平成4年度会計計画-----	65
平成4年度北海道支部役員名簿-----	66

緑の表面積を広げる

地球の緑のピンチ、二酸化炭素の増加と温室効果、酸性雨による森林の被害、等々が、だんだん声高に論じられるようになってきた。そして、林業界へも、とくに林業試験場へも、二酸化炭素の吸収（固定化）装置としての森林を、より機能的にはたらかせるために、林業の構造（植栽～保育～間伐～伐採～利用～再利用）を根本的に変える研究をするように、社会から望まれつつある。

けれども、人類の人口増加からみれば、今後も、不断の開発にともない、森林面積は減りつつける方向にあるから、林地だけで努力しても、林業人だけに期待しても、それほど大きな成果は得られないのではあるまいか。

むしろ、開発する側が、また、開発の恵みを受けている側も、既往の開発地域において、都市においても、農村においても、公園樹、生垣、防風林、鎮守の森、街路樹、海岸林、河畔林などの、各種の樹林帯のより一層の整備・造成を図ることが重要である。さらに、建物の壁、護岸ブロック、石垣、樹木の幹、電柱まで、あらゆる空いている面に、植物（つる類）を貼りつけて、身近な緑の表面積を、可能な限り広げてゆく努力が、切に望まれよう。こうした今の地球人としての努力は、後世への最大の贈り物（あるいは償い）になるにちがいない。

残雪の神々の山天に在り

（表紙と文：斎藤新一郎）

巻頭言

北海道支部幹事長 古川義純(北大低温科学研究所)

本誌「北海道の雪氷」も今号で第11号の発行という新たな出発への一区切りを迎えました。今号からは、表紙もカラー印刷となり、北海道立林業試験所の齋藤新一郎会員による美しい版画で飾ることができました。この「北海道の雪氷」という誌名も変更してはという意見もありましたが、これに変わる良い案もなく当面はこのままでということになりました。会員の皆様からのアイデアをお待ちします。

10年前、ちょうど私は、北海道支部の幹事のひとりとして、創刊号の発行にたずさわりました。当時、本誌の発刊について、支部理事会等で意見が百出し、「雪氷」という学会機関誌があるので必要ないという意見から、ぜひ発行し支部会員へのサービス向上を計るべき、との意見等さまざまであったことが思い出されます。しかし、当時、支部行事は主として札幌を中心として開催される傾向が強かったことと、各々の行事がやりっぱなしで、この活動に参加しなかった会員、または遠方のため出席できなかった会員の皆様にその内容が伝達される手段がありませんでした。このような状況を改善し、支部活動の発展を促進するものとして、最終的には発刊に合意が得られたと記憶しています。その後、中断されることもなく発行が続けられ、さらに発展をとげてきたことに当時発刊にたずさわったひとりとして大変うれしく思います。

しかし、本誌の発行も、このような発展とはうらはらに厳しい局面にも立たされています。まず、この近年の印刷費の高騰のため、本誌の発行費が支部会計を圧迫し始めたことがあります。現在は、何とか事務局の努力で発行のための費用を捻出していますが、近い将来、支部会計が改善されなければページ数の削減などの処置をとらなければならない可能性があります。さらに、近年の雪氷学会総支部化にともない、各地の支部でも同様の会誌発行が企画されていますので、10年の歴史を誇る本誌が、他支部の目標となる様、内容をより充実させることが要求されています。このためには、新しい企画を積極的に取り入れていくことが重要かと考えます。今日では、本誌の発行は、支部活動の根幹をなす事業のひとつとなっています。今後、困難を克服し、さらに本誌が発展できるよう支部会員の皆様のご協力をお願いいたします。

平成4年度研究発表会講演要旨

日時：平成4年6月10日（水） 10：00－15：30

会場：北海道大学学術交流会館 第一会議室

午前の部

10：00－10：30 支部総会

研究発表会（発表は質疑応答を含め1人13分）

10：35－12：10 座長 福沢卓也（北大低温研）

1. 1991-'92年冬期の道北地方の積雪分布と化学成分の変動
藤原滉一郎、佐藤冬樹、笹賀一郎、飯原慶子（北大演習林）
2. 北海道北部・東部の広域積雪調査
秋田谷英次、石井吉之（北大低温研）
3. サン・クラストの形成機構
尾関俊浩、秋田谷英次（北大低温研）
4. ネパール、クンプヒマールのイムジャ氷河湖の発達過程
渡辺悌二（北大環境研）
5. 吸水性ポリマーを用いた人工積雪の特性（1）積雪構造の観察
上林泰二（PAS研究会）、藤野和夫（北大低温研）
6. 氷晶の併合と成長－鉛直過冷却雲風洞実験－
高橋庸哉（北教大）、遠藤辰雄（北大低温研）、若濱五郎（北大名誉教授）
7. 山地河川におけるアイスダムの形成と河川水温について
山崎誠、八巻修一（北海道電力（株））、杉田誠（北電興業（株））

午後の部

研究発表会

13：00－14：20 座長 松沢 勝（北海道開発局開発土木研）

8. トドマツ人工林における降雪の樹冠しゃ断
中井裕一郎、北原曜、坂本知己、斉藤武史、寺嶋智巳（森林総合研究所北海道支所）
9. 耕地防風林の地吹雪捕捉機能と材木の雪害について（4）－雪丘害に対する保育方法および更新方法について－
斉藤新一郎（北海道立林業試験場）
10. 道路防雪林の排雪による材木の雪害とその対策について――道央自動車道札幌－岩見沢間の事例――
斉藤新一郎（北海道立林業試験場）、上島勉（日本道路公団岩見沢管理事務所）
11. 路面圧雪の硬度とすべり指数に関する実験的研究
天野隆明（北大低温研、現：日本道路（株））、秋田谷英次、成瀬廉二（北大低温研）

12.ロードヒーティング用電熱線の性能試験

佐山惣吾、西川泰則、三浦健一（北海道工業開発試験所）、須藤昌義、酒井好夫
（（株）フジイ）、田中邦雄（（株）帝人）

13.ロードヒーティング電力調節法

佐山惣吾、西川泰則、三浦健一（北海道工業開発試験所）、須藤昌義、里 伴昭
酒井好夫（（株）フジイ）

14：25－15：30 座長 金田安弘（日本気象協会北海道支部）

14.交通障害から見た北海道の雪害発生状況について

山形敏明、加治屋安彦、苫米地司（北海道工業大学）

15.屋根葺き材と雪氷体との凍着力について

苫米地司、山口英治（北海道工業大学）

16.雪氷が屋根葺き材の劣化に及ぼす影響について

伊東敏幸、苫米地司、星野政幸（北海道工業大学）

17.風の諸性状と屋上積雪性状との関係について

橋本茂樹、苫米地司（北海道工業大学）

18.住宅地における除雪苦勞度に影響を与える要因分析

小原優明、大垣直明（北海道工業大学）